

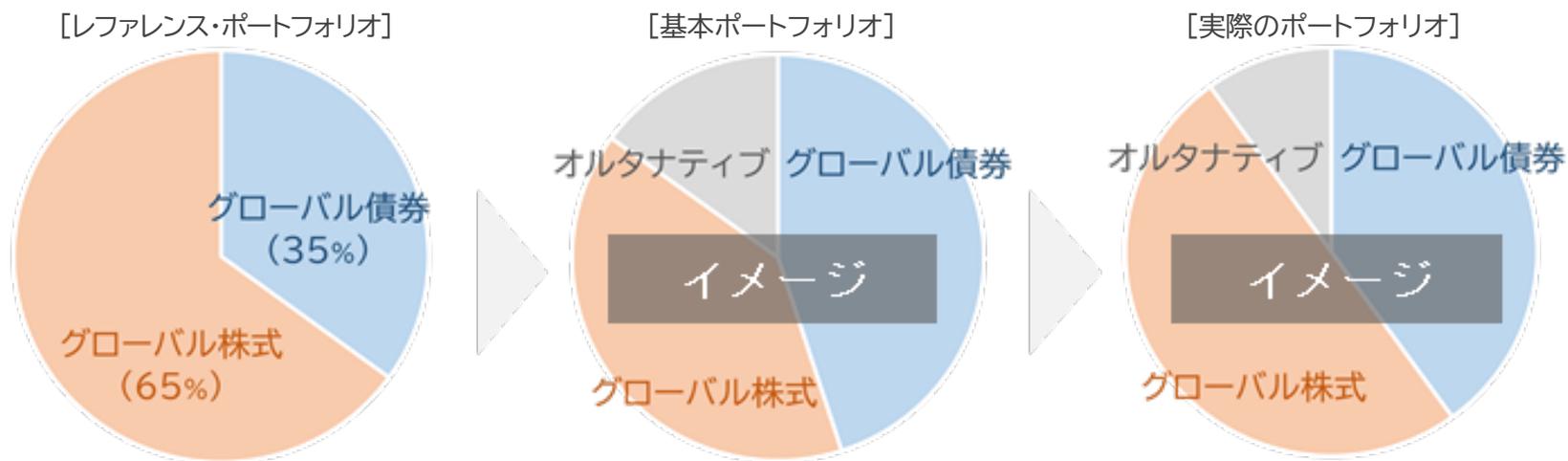
# JSTの助成資金運用にかかる 基本的な枠組みについて

内閣府  
科学技術・イノベーション推進事務局

# JSTの資金運用にかかる基本的な枠組み ～レファレンスポートフォリオ（許容リスク）～

## 内閣府「大学ファンドの資金運用の基本的考え方」における主旨

- JSTでは、国が定めたレファレンス・ポートフォリオ（グローバル株式：グローバル債券＝65：35）のリスクの範囲内でリターンを最大化するよう、基本ポートフォリオを検討する。
- リスクが同等である限り、JSTが具体的な資産配分を定め、法令において定められている投資対象の範囲において、投資対象とする資産を適切に選択し運用する。



※ 対象資産・資産構成割合等はイメージ。実際の割合とは異なる。

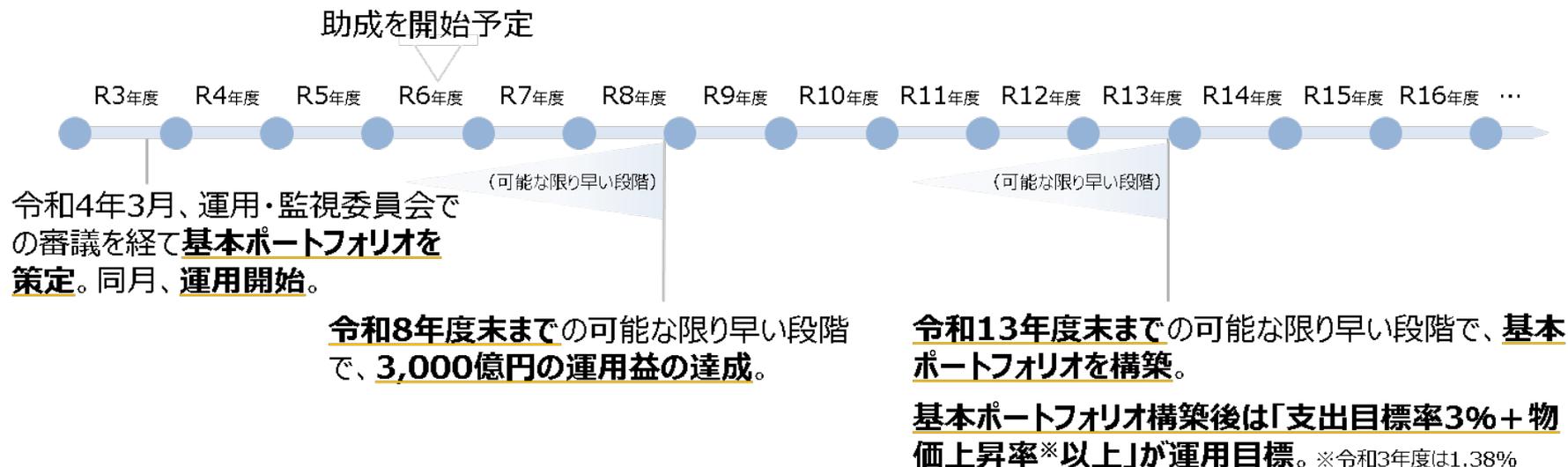
## 今回のデリバティブ取扱商品拡充検討におけるポイント

- デリバティブは、許容リスクをもとに定める基本ポートフォリオや資産配分方針のリスクを超えない範囲で、実際に運営するポートフォリオの主要なリスクをコントロールする手段として利用。
- 投資の意思決定とその目的に沿った適切な使用であることについて、リスク管理部門が定量・定性両面でモニタリングする枠組みを構築。

# JSTの資金運用にかかる基本的な枠組み ～運用立ち上げ期～

## 内閣府「大学ファンドの資金運用の基本的考え方」より抜粋

- 10年以内の可能な限り早い段階で長期運用目標を達成するためのポートフォリオ構築を目指す。運用当初の立ち上げ期は、許容リスクの範囲内で、バッファの構築等も十分踏まえつつ、ポートフォリオの移行にかかる計画及びそれを踏まえたポートフォリオを策定する
- 運用実績、運用手法等について、年度の公開資料をわかりやすいように工夫する。情報公開に当たっては、市場への影響等に留意する。特に、ポートフォリオが成熟するまでは、運用実績等のみに公開をとどめるなど、透明性を確保しつつ、戦略的な取り組みを進める



## JST「助成資金運用の基本方針」（文部科学大臣認可）におけるポイント

- ポートフォリオ構築への影響に鑑み基本ポートフォリオは非公開とし、年度末時点の資産構成割合については毎年度業務概況書の中で公表する。
- バッファの確保等も十分踏まえつつ、可能な限り早く基本ポートフォリオに沿った資産構成割合を実現するよう計画的な移行を行う。